

# 一校一國運動を経験して

筑波大学体育系研究員  
土屋 智美

# 自己紹介

- 1996年：長野市城山小学校
- 1997～98年：長野東部中学校
- 長野吉田高校
- 早稲田大学スポーツ科学部
- 国連平和大学国際平和学専攻
- NPO法人ハート・オブ・ゴールド  
カンボジア事務所
- 筑波大学体育系研究員

一校一國運動の開始：モンゴルと交流

一校一國運動：アメリカ、プエルトリコと交流、総合学習においてカンボジアの地雷問題や貧困など学ぶ

留学の決意、英語学習

「スポーツと国際協力」  
カンボジアでインターン

フィリピン・コスタリカで修士号、  
パレスチナ難民キャンプの青少年育成プログラムでインターン

小学校体育科教育支援、保健教育支援、チャリティマラソン運営支援

スポーツ国際開発学共同専攻開設準備

開発と平和のためのスポーツ  
Sport for Development and Peace

# 一校一國運動への参加

- 1城山小学校(6学年時) - モンゴル
  - 調べ学習(文化、生活など)
  - モンゴル料理学習会
  - モンゴル大使館訪問
- 長野東部中学校(1・2年次) - アメリカ・プエルトリコ
  - アイスホッケー観戦とアメリカチーム応援
  - 選手団との交流会
  - アメリカオリンピック委員会委員との交流会

その他・総合学習でカンボジアの地雷問題、貧困問題等の学習、クラスでの物資や寄付集めの取り組み

→国際社会への興味関心、国際協力分野を志すきっかけ



# 一校一國運動

## □ 活動

相手国について調べる

文化、歴史を学ぶ

紛争や地雷問題について学び、平和を考える→平和教育

相手国の人と交流

外国籍児童の国を取り上げて学習  
→多様性の受容、異文化理解

相手国の学校と交流

日本に住む相手国の人と交流(大使館、留学生、一般の方など)

相手国の選手を招へいし交流

相手国の学校と手紙やビデオレターの交換、作品の交流など

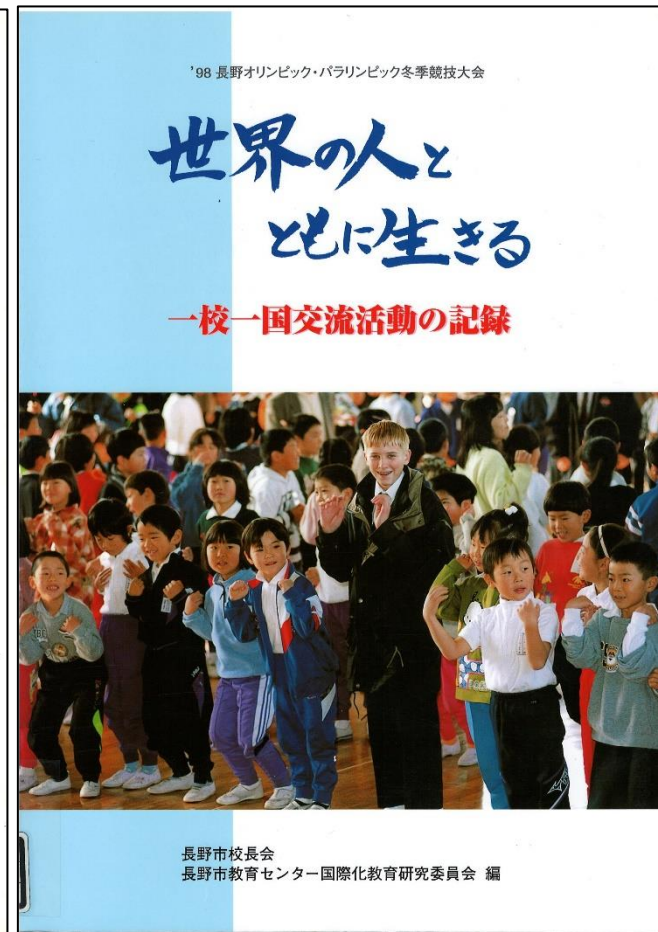
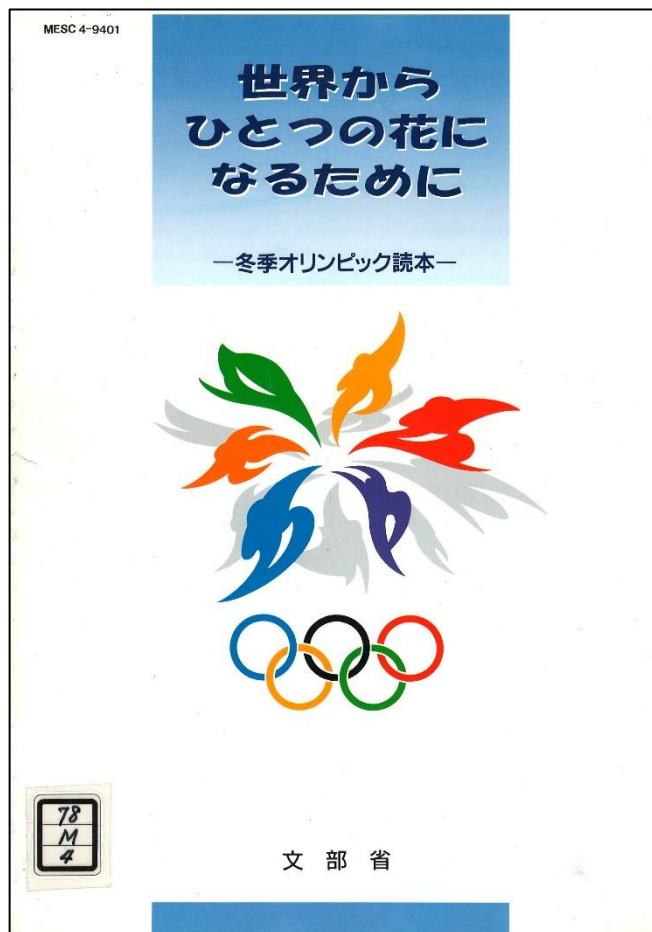
オリンピック・パラリンピックにて相手国チームの応援

相手国の選手や代表団を招いて交流会、スポーツと文化の交流

その他(地域に広がる活動)

保護者が自主的に行う地域に住む外国人との交流

# 参考資料



# 一校一國運動のその後

---

- 1996年～98年: 75校が参加
- [18年後] 2009年: 20校が継続
- 事例

## 三本柳小学校

ボスニア・ヘルツェゴビナと交流し民族紛争の現実や地雷問題について学ぶ。

[現在]ナフィヤ・サライリッチ小学校との交流継続、  
地雷問題の学習から、生徒がルワンダを訪問

## 西部中学校

異文化理解学習の一環として、トルコと交流。

[現在]タンプナル校との交流継続、  
元青年海外協力隊員の教員が中心に活動

# 一校一国運動経験者調査

---

- 交流相手国について学習したことで外国への興味が増した。
- それまで知らなかった国を知り、海外の選手も応援するきっかけとなった。外国から来た人と話をしてみたいと思った。大学で英語を学ぶことを決めたのもオリンピックや一校一国運動の経験があったからだと思う。
- 初めて外国の人と接する機会であったため、挨拶や応援をしようという気持ちになった。海外に興味を持ち、大学在学時にオーストラリアへ留学。
- 自分の育った土地でのオリンピック開催は人生の中でも大きな出来事であった。社会人になった後、青年海外協力隊としてブータンに2年間派遣された。
- 初めて外国の人と接する機会となった。家族がボランティアとして参加していた。

# 一校一国運動経験者調査

---

- 外国から来た人々と話がしたくて積極的に話しかけた。オリンピック開催前は英語学習が嫌いだったが、外国から来た人々と接する機会を経て英語学習に意欲的になった。高校では英語科に進学し、その後アメリカの大学へ進学。
- 自分が全く知らなかった国の人々と交流することが楽しかったので記憶に残っている。大学では国際関係を専攻し、アジアからの留学生などとサークル活動を行った。
- オリンピックや一校一国運動を通して、世界の国について知る機会が増え、世界観が広がったと思う。国際的なイベントや機会に関わることが英語講師を仕事とするきっかけになったと思う。大学在学時にはカナダとロンドンに留学。2005年長野スペシャルオリンピックスのボランティアをした。



# 一国一校運動とは・・・

---

- 異文化理解や英語学習意欲を促進する
- 興味を持つきっかけづくりであり、学習や経験の発展を促す
- Humanization – 遠くの外国が近くに、「世界の出来事」が「自分ごと」に

国際的な視野を養う

世界の平和に貢献する人材の育成

## 継続的な活動に向けて

- 学習テーマの重要性
- 学校や地域に内在する問題とのつながり
- 青年海外協力隊OB・OGまたはJICA国内事務所との連携